

授業づくり	重点	・学習の流れやめあてを明確にし、児童に見通しをもたせることや、授業のまとめや振り返りを確実に行うことで基礎学力の定着を図る。 ・一人一人が考えをもてるような学習を展開し、考えを伝え合う工夫をし、思考力と表現力を高める。	中間評価		最終評価	
環境づくり		・必要に応じてＩＣＴ機器を活用し、視覚的に分かりやすい提示を行うことで学力の向上を図る。 ・「分かる」喜びを実感させ、自ら学ぼうとする意欲が向上するよう、集団での指導（一斉指導やグループ学習）と個に応じた指導（個別指導）の工夫と充実を図る。				

学年の取組み内容

学年	教科	学習状況（10月）	課題（10月）	改善に向けた取組み（10月）	最終評価（2月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況（4月）	課題（4月）	改善に向けた取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
2	国語	学 平仮名の読み書きは正しくできるようになった。 学 「～は、～を、～へ」を正しく使うこと、促音の「っ」を正しく使うことには定着に差があるため、引き続き指導を続ける必要がある。 学 話型を使ったことで要点をまとめて短く話すことができるようになってきた。また、友達の発表の良いところを手本にして発表できるようにもなってきた。	・字のバランスをとるのが難しい児童がいる。 ・「～は、～を、～へ」を正しく使うことの定着に差がある。 ・決められた字数で文章を書くことに、苦手意識をもっている児童が何名かいる。	・新出漢字を学習する際、字のバランスについて注目させ、意識させるようにする。 ・毎週末に日記の宿題を出し、その中で言葉の使い方や書き方についての指導をする。自分の気持ちを入れて上手に表現できている児童を褒めながら底上げを図る。		
	算数	学 授業や家庭学習での反復練習により、ワークテストでは8割の児童が繰り上がり・繰り下がりのある計算や3つの数の計算を正確にできるようになった。2割の児童は、時間がかかりすぎたり、計算ミスが多かったりするので、引き続き指導していく必要がある。 学 具体物や半具体物を用いたり、それを絵や図に表したりする学習を繰り返してきたことにより、問題と絵や図、式、言葉を関連付けて考えられる児童が増えた。	・児童によって理解度にかかなりの差がある。 ・自分の考えを図や絵で表して説明することにまだ慣れていない。	・個別の指導を適宜取り入れ、学習支援員と連携しながら指導していく。 ・筋道を立てて説明できるように、「まず」「つぎに」「なぜなら」などのキーワードを適宜ヒントとして与え、説明することに慣れさせていく。		
3	国語	学 主語と述語を対応させ、ある程度の字数で文章を書くことに課題が残る。主語に対応する適切な述語を選んだり、つくったりする活動を今後も繰り返し取り入れていく。 調 1年生配当の漢字の書きと2年生配当の読みは区の学力調査の目標値に、概ね達している。今後は作文等、文章を書く学習においても既習漢字が活用できる児童が増えた。	・書くことの能力が、児童によって個人差が大きい。 ・友達の考えや意見を聞く力が弱い。	・短い分量で、毎日日記を書かせ、個別に指導していく。 ・他教科との関連を図り、友達の考えや意見から学ぶ授業作りをしていく。		
	算数	調 区学力定着度調査から、加法、減法、乗法の文章問題に関する正答率は概ね目標値に達しているが、乗数、被乗数を混同する児童がいる。問題場面の視覚化を今後も取り入れ理解を促す必要がある。 学 加法、減法の筆算は概ね目標値に達しているが、繰り上がり2回の加法では若干正答率が下回る。誤答の傾向に合わせた問題に取り組ませていく必要がある。	・文章を読み解き、解決する問題に対して苦手意識をもっている児童が多い。 ・加法、減法、乗法の能力に、個人差がある。	・大切な言葉を囲ませたり、問われていることが何かを確認したりしながら丁寧に指導していく。 ・得意な児童にはたくさん問題を解かせていく。苦手な児童等は放課後に補習等を行い、能力の底上げをしていく。		

コメントの追加 [池田 知1]: 重点プランの作成どうもありがとうございました。
修整・加筆案をお送りいたします。
御確認頂き6月上旬を目途にHP上へのアップをお願いいたします。
なお、修整したものの再提出の必要はありません。
よろしくお願いいたします。

コメントの追加 [k2R1]:

コメントの追加 [k3R1]:

コメントの追加 [池田 知4]: 根拠は何ですか。学力調査？

コメントの追加 [池田 知5]: 理解の進んでいる児童の保護者はどう感じるか
進んでいる児童への支援は何か

コメントの追加 [池田 知6]: 区学力定着度調査 以下各学年統一

コメントの追加 [池田 知7]: 囲ませたり

4	国語	調3年生配当の漢字の読みは、区の学力調査の目標値に概ね達しているが上回っているが、2年生配当の漢字を書いたり、作文を書いたりする力に課題がある 学物語を読み取る能力はついてきている。	・既習の漢字を使い、相手や目的を意識して文章を書くことを日常的に繰り返し取り組ませていく必要がある。 ・文章の中で、漢字を正しく読んだり書いたり使ったりすることが難しい。 ・知らない言葉に出会った際に調べるという習慣がなく、わからないままにしてしまう。または、聞いて分かった気になってしまい、定着していない。 ・引き続き、音読や読書をしていく上で、わからない言葉や漢字に出会ったときには国語辞典で調べる習慣がつくように促す必要がある。	・漢字の学習の際には、漢字の成り立ちや部首に注目させ、その漢字がもつ意味について考えさせる。また、熟語や例文の形で練習し、正しく使えるようにする。 ・他の言葉で言い換えることのできない場合は分からない言葉であると認識させ、語句にマーキングさせる。そしてその次の手順として国語辞典で調べたり、前後の文章から推測したりする習慣を付ける。		
	算数	調九九の習熟に、全体でも個別でも繰り返し行ったことで、かけ算・わり算の内容は、区の学力調査でも目標値を上回り、定着が見られた。 学文章問題を解いたり、式の説明をしたりする数学的な考え方を問われる分野では、まだ大きく課題が見られる。ただ、手順を覚えて計算するだけでなく、なぜそのような式になるのかを説明できる力を付けていく必要がある。 学コンパスや定規の使い方に、課題が見られる。	・単純な四則計算はできるものの、問題文をよく読み、問題の意図を的確に捉え、答えることが難しい児童がいる。 ・定規やコンパスを使い、丁寧に作業することが難しい児童がいる。 ・道具の正しい使い方を再度確認して、個別に指導をしていく必要がある。	・問題文をよく読ませ、演算決定の根拠を考えさせるようにする。 ・道具の使い方を動画や視覚的に分かりやすい教材を使うことで、効果的にかつ丁寧に繰り返し指導する。		
5	国語	調漢字が依然として苦手な児童が多い。特に既習の漢字が書けないので、日常的に活用させ、活用している場面を見つけたら、全体で評価する指導を続ける必要がある。 学授業で取り扱う説明文や感想文、要約の書き方は理解できているので、活用させ定着させる。	・既習漢字を、学習の場面や、作文の中に表現できる児童が少ない。 ・登場人物の心情を叙述から正しく読み取ること苦手意識をもつ児童は多い。	・日常の短文づくりや、ノート上での表現について、児童が自ら留意できるよう、個別の指導を丁寧に行っていく。 ・行動やセリフから解釈される心情と、自分の想像からくる解釈との区別を意識させながら読み取りを行わせる。		
	算数	調区の学力定着度調査では、図形の主に垂直や平行四辺形の作図につまずきがあると思われる。定規やコンパスの扱いについて、不器用で、慣れていない児童があるので、機会を増やすように意識したい。 学算数の授業自体は改善が見られ、課題と向き合い自力で解決し、話し合いを通して高める姿が多く見られた。	・知識や技能の習得に力を入れている児童が多いが、自ら、新しい規則を見出したり、自分の考えを、筋道を立てて表現したりする児童は少ない。 ・4年生までの既習事項（概数、面積、計算のきまり）の知識を使いこなせない児童が多い。	・物事が多面的に見られるように、児童が気付いていないきをまりを、段階的なヒントを与えながら見つけられるよう支援していく。 ・問われている内容が何であるのか、また、単位の絶対的な量感や計算のルール等に注意を向ける場面を豊富に設定する		
6	国語	調区の学力定着度調査では、書く領域の問題全6問のうち、3問が目標値を上回り、2問が目標値に近い正答率となった。目標値より低かった問題は自分の考えを表現する問題であった。 学一定の文字数を書いたり、条件通りに書いたりすることはできてきている。一方自分の考えを表現するのが苦手な児童がいるので、課題に対して意見をもって書く機会を増やしていきたい。	・自分の考えを表現することはできるが、それを発信することに個人差がある。 ・「聞くこと」を苦手とする児童がいる。 ・漢字、文字を正しく書ける児童は多いが、一定数の児童が漢字の細かい部分まで正しく書くことを苦手とする。	・書くことに力を入れ、ノートを板書通りに作ることを徹底する。 ・決まりを作り、正しく開ける環境にしてから意見を述べるようにする。 ・漢字テストを行い、漢字書き取り定着への意識を高める。具体的には、プレテストのようにプリントを家庭学習等で学習させて、テストのための準備をさせ、漢字の定着を図る。		
	算数	調区の学力定着度調査では、ほぼ全領域で目標値を上回った。数と計算領域では全問目標値を上回っていることから、基本的な計算力は身に付いていると考えられる。 学表現する問題も2問とも目標値を上回っていることから、日頃の学習の積み重ねが結果として表れたと考えられる。引き続きICTを活用しながら、解き方、考え方を説明できる力を身に付けさせていく。	・基本的に区の学力定着度調査の結果と同様、算数に対し意欲的で、力もついている。ただ、苦手意識をもっている児童もいる。	・苦手意識をもった児童の底上げを図りたい。そのために、ICT活用はもちろん、プリントやドリルを活用し、反復学習を重ねて学力の定着を目指す。		

コメントの追加 [池田 知8]: 右側欄へ移動

コメントの追加 [k9R8]:

コメントの追加 [池田 知11]: どのように？

コメントの追加 [k12R11]:

コメントの追加 [池田 知10]: 右側欄へ移動

コメントの追加 [池田 知14]: 具体的に

コメントの追加 [池田 知13]: 右側欄へ移動

コメントの追加 [池田 知15]: 日常

コメントの追加 [池田 知16]: どのような意味か

音楽	(低) ・声を出すことに関しては抵抗が無く、懸命に歌う児童が多い。 ・全員で一斉に歌うことはできるが、一人で歌うことに抵抗感や苦手意識をもっている児童がいる。 ・音楽に合わせて体を動かすことがとても好きである。 (中) ・歌うことへの意欲はとても高く、大きな声で歌っている。しかし、力んで応援のような声を出している児童は多い。 ・周りからの評価が気になる、自分の声に自信が無い、などの理由で、ひとりで歌うことに苦手意識を持っている児童がクラスに半分ほどいる。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカに感心をもって上手になりたいという意欲をもって臨む児童は多い。 ・鑑賞では音楽の良さを感じたり、楽しんだりすることはできるが、言葉に表したり、体で感じたりする子は少ない。 (高) ・高学年になってもよく声を出して歌っている児童が多い。一方、変声期を迎え音程がつかめなかったりして声を出すことに意欲を失ってしまいそうな児童もでてきている。 ・楽器での合奏には意欲感が高く、技能面でも伸びていて、楽しみながら演奏できる児童も増えている。 ・鑑賞では音楽の良さや特徴をつかんでいても発言が少なくなかなか皆で深め合えない。	(低) ・みんなの前でも間違えを気にせず声が出せるようになること。 ・自分がつまずいていることがわかり、教師や、友達に相談できること。 ・体でリズムを感じて表現できること。 (中) ・自然で無理の無い声を出すための大切なこと（姿勢、呼吸、体の使い方）を理解し、取り組むこと。 ・友達の歌声を応援する姿勢や、「一人で歌えた！」という自信や達成感をもたせる。 ・曲を自分で吹いていける基礎的な力（楽譜を読む力、息の使い方、姿勢、運指など）を付けていくこと。 ・音楽の特徴や自分の表現を言葉で表現し、クラスで音楽の内容や個人の思いを共有できるようにすること。 (高) ・歌う力のある児童に引っぱられて歌えるところから、自分からいい声を出したいと一人一人が思っていて歌うところまで高めること。 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの基礎的な力（タンギング、呼吸法、姿勢、軽やかな指の動きなど）を付けること。 ・楽譜を読む力、階名唱できる力をもっと付け、自主的に練習が進められる力を付け、友達同士で合わせる楽しさを感じて取り組むところまで高めること。 ・素晴らしい音楽、いろいろな国の音楽などたくさん聴く場面を作ること。	・ワンフリーズでも良いので、一人で歌う機会を作る。技術面よりも意欲や頑張りを褒めるなどして、自信を付けさせ、一人や少数で歌うことへの抵抗感を無くす。周りで聴いている児童は、友達の歌声の良さを見つける機会を作り、一人一人の良さを受け入れたり、認めたりする環境を作る。 ・豊かな歌声の出し方、リコーダーや鍵盤ハーモニカの正しい吹き方、に必要なタンギングのつけ方、息の使い方、姿勢、呼吸の仕方などの基本的な力を学年に応じた目標を見極め、身に付けさせる。 ・仲間と声を合わせて合唱して美しいハーモニーを感じたり、音色を聴き合いながら合奏したりする経験を通じて音楽の楽しさを伝えられるようにする。 ・ペア、グループで練習したり、見合ったり、教え合ったりする場面を作って仲間とコミュニケーションを取る中で力を合わせてできた喜びを感じさせる。 ・鑑賞で、いろいろな音楽を聴かせ、美しい音色、歌声のイメージをつかませる。		
	・昨年度は、多くの児童が鑑賞カード（いいねカード）を何枚も書くことができていた。ただ、作品の見方が浅い児童もあり、鑑賞する様子には個人差がある。 ・課題に興味をもち生き生きと表現することができる。道具や材料の体験が少なく、自信をもって取り組めない児童もいる。 ・自分の思いや願いをもって表現できる児童がいる一方で、表し方に迷う児童の姿も見られる。	・一人一人がお互いの作品に興味をもち、よさや面白さを感じとったり、感じたことを伝え合ったりして、進んで鑑賞できる態度を育てること。 ・描画材や材料との関わりを通して「こうしたい」という思いをもてるようにすること。 ・表現の前の段階で一人一人がイメージを広げられるようにする。	・作品鑑賞を学期に一度は行い、鑑賞カードの項目を工夫して、お互いの作品のよさや表現の工夫を認め合えるようにする。 ・様々な材料を体験させると同時に、児童が自分の気付きをもとに何度でも試すことのできる題材設定をする。 ・児童のイメージを把握するためのワークシートを用意するなどして一人一人を確実に見とることができるようにする。		

コメントの追加 [池田 知17]: HP上に載せるので児童のマイナスイメージが強く出るような部分がないか再度チェックしてください

※分量は2 ページ以上となってもよい。